

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	高等教育における学習経験レベルを考慮した知覚品質評価に関する研究
Title(English)	Research of perceived service quality evaluation using the learning experience level in higher education
著者(和文)	川本弥希
Author(English)	Hisaki Kawamoto
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10905号, 授与年月日:2018年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:日高一義,比嘉邦彦,西條美紀,室田真男,辻本将晴,渡邊雄貴
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10905号, Conferred date:2018/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

## 論文要旨

### THESIS SUMMARY

専攻： Department of	イノベーション	専攻	申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	（ 学術 ）
学生氏名： Student's Name	川本弥希		指導教員（主）： Academic Supervisor(main)	日高一義	
			指導教員（副）： Academic Supervisor(sub)	比嘉邦彦	

#### 要旨（和文 2000 字程度）

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters )

本研究は、学生の学習への関与状態を考慮し、高等教育における学習成果に関する知覚品質を、より正確に評価するための概念モデルを作成することが目的である。第1章では研究の背景と目的、第2章では関連する先行研究、第3章では学習経験が影響を与える要因の検証、第4章では学習経験を形成する要因の検証、第5章では本研究のまとめとして、結論と今後の課題に関して述べている。調査は日本の3つの大学において、大学1年生から修士2年生の調査協力に同意した学生、計214名を対象に、紙ベースのアンケート用紙を用いて実施された。

第1章では、本研究における問題意識と、それを解決するための研究課題を設定した。本研究の問題意識は、教育における学習意欲や態度の改善などの学力面以外での学習成果が、教育サービスの知覚品質の評価モデルに、影響要因の一つとして考慮されていないことである。そこで、本研究における課題として以下の2つが考えられた。(1)学生の学習関与状態が、学習成果として、知覚品質評価に与える影響について十分な議論が行われていない。(2)学生の学習関与状態の形成に影響を与える要因の体系的な枠組みが、十分に検証されていない。

第2章では、学習の関与状態及び教育サービスの知覚品質評価に関する研究動向を把握するため先行研究を調査した。近年では、教育においても学習関与（エンゲージメント）の研究が注目を浴びており、このエンゲージメントの概念を本研究でも踏襲した。また、教育サービスの評価は、知覚品質の概念化や測定モデルの開発が進んでいる。ところが、教育サービスは複雑で評価が難しく、サービス品質をより正確に測定するためには、いまだ研究の余地が残されていると考えられている。

第3章は、課題1と対応し、研究IとIIで構成される。研究Iでは、学習経験レベルの学習成果満足度、行動意図への直接的な影響を定量的に検証することが目的であった。そこで、サービス研究における知覚品質評価モデルを適用し、既存の評価モデルに学習経験レベルを追加、その有効性を検証した。その結果、学習経験レベルを追加した方が、モデルの適合度はより高くなる傾向が分かった。研究IIでは、学習経験レベルを学習成果として考慮し、学習成果満足度、行動意図との関連性を検証して、新しい評価モデルを作成することが目的であった。そこで、学習経験レベルを追加した仮説モデルを作成し、そのモデルの妥当性、信頼性をパス分析により検証した。その結果、学習経験レベルから、学習成果満足度、行動意図への直接的、間接的な影響があることが確認された。

第4章は、課題2と対応し、研究IIIとIVで構成される。研究IIIでは、学習関与状態の形成概念の体系化を行った。学生から収集した定性データからテキスト分析によりカテゴリーを抽出し、概念の体系化を行なった。以上より、学習経験レベルの変化には、個人の内的要因として、学習意図、存在感、開放性、信頼感、また、外的な環境要因として、講義の明瞭性、学習内容の汎用性の影響が確認された。次の研究IVでは、学習経験レベルの定量的な尺度が開発されていないことが課題であった。そこで、既存の教育心理尺度を用いて、学習経験レベルとの関係性を定量的に検証した。その結果、学習経験レベルを変化させる重要な要因として、学習に対する興味や関心、価値の認識、自身の存在の認識が、学習経験レベルを高めることが分かった。

第5章では、研究IからIVより得られた知見を概観し、成果をまとめようとして、今後の課題を明らかにした。本研究の成果として、学生の講義に関与する状態の改善は、学力などの学習成果に影響を与えるだけでなく、その講義に対する満足感、将来の行動意図にも、直接的な影響を与えることが分かった。また、本研究の課題として、調査結果の一般化には異なる学生や講義タイプにおける実証研究や、経時的な更なる調査を行うことなどがある。(1614文字)

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)  
Doctoral Program

## 論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻 : Department of	イノベーション	専攻	申請学位 (専攻分野) : Academic Degree Requested	博士 Doctor of	( 学術 )
学生氏名 : Student's Name	川本弥希		指導教員 (主) : Academic Supervisor(main)	日高一義	
			指導教員 (副) : Academic Supervisor(sub)	比嘉邦彦	

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

The primary purpose of this paper is to develop a new conceptual model to evaluate perceived service quality (PSQ) in higher education using the level of learning experience.

In the first chapter, I argue difficulties of the PSQ measurements in higher education. I also discussed how to improve the accuracy of the conceptual model of the PSQ.

In the second chapter, I introduce previous researches related to this study. I introduce the theories of learning engagement, learning experience (LX), the conceptual models of the PSQ, and so on.

In the third chapter, I develop a new conceptual model of the PSQ in higher education. I investigate influences of the LX level on student outcome satisfactions (SOS) and behavioral intentions using 146 valid answers from three public Japanese universities. The new conceptual model indicates that the LX level has the significant positive direct effects on the SOS and the behavioral intentions.

In the fourth chapter, I investigate factors, which affect the LX level in higher education. I survey 47 voluntary Japanese college students, and the qualitative analysis shows that intent to study, presence in the class, openness to a particular subject, confidence in learning, immediacy of the lectures, and malleability of the lectures were the important factors to obtain the LX level. In addition, the quantitative analysis indicates that the LX level has the significant positive correlations with intrinsic motivation and identified motivation, presence in the classroom, mastery goal, and self-efficacy.

In the fifth chapter, I summarize the results in chapter 3 and 4, and discuss the further researches. Then, I conclude that the LX level could play an important role to measure the SOS and the behavioral intentions in higher education.

281 words

備考 : 論文要旨は, 和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか, もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意 : 論文要旨は, 東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので, 公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).